

◆学区外通学：全国Vの守山北中バレー部、越境通学 7人、住民票移させ＝名古屋

名古屋市守山区の市立守山北中学校（藤吉友真校長）が、他の中学校の生徒7人の住民票だけに移させ、転居を伴わないまま越境通学させていたことが分かった。7人は同校で男子バレーボール部に所属。同部は昨夏の全国大会で優勝した強豪で、同部顧問の男性教諭（60）の働きかけや生徒の希望があったという。市教育委員会は、市が認めていない学区外通学の可能性があるとして調査している。

学区外通学していたのは3年生5人と2年生2人。愛知県内の別の学区から転校してきて、守山北中の学区内に住むバレーボール部OBの住所に住民票だけ移していた。

07年10月に情報を受けた市教委が同校に調査を指導。同校が保護者に勧告するなどした結果、4人が自宅のある地域の中学校に転校したが、うち1人はなじみずに守山北中に戻ってきたという。現在も3年生4人が通学を続けており、同校の小島均教頭は「05年から学区外通学を把握していたが、子供のことを考えて黙認していた。今後解消に努めたい」と釈明している。

市は、卒業直前の転校など12項目に該当する場合は例外的に生徒の学区外通学を認めているが、部活動目的では許可していない。市教委はほかの中学校数校でも認められない学区外通学が行われている可能性があるともみて調査している。【影山哲也】

毎日新聞 2008年1月9日(水)